

太古から現在まで下北の地を吹き抜ける

うそりの風

2024.2

市政だより

第121号
発行

53. 7. 26
むつ市役所
青森県むつ市金谷
1丁目1番1号
TEL 2-1111
市民相談室
K・K協同印刷

編集
印刷

第9号

子どもネブタの時代とき

■誌上ギャラリー

ふむつのまじまじ

ジュニアのページ

- 下北を築いた人々⑥ 歌人 鳴海要吉
- 恐山街道の三十三観世音菩薩像
- 五代目四郎治と明治維新
- 旧斗南藩士族攷（1）
- 恐山今昔（3）

巻頭言

リサイクル燃料貯蔵株式会社の親会社である東京電力株式会社の営業開発部によって、1989年4月に、創造する人のための科学情報誌「イリュウム（ILLUMINE）」創刊号「特集地球新時代にむけて創造性をさぐる」が科学教育の発展に寄与することを願い、社会貢献活動の一環として刊行された。しかし、2007年6月発刊の37号『大きく変わる宇宙観—観測がひらく新しい世界—』が最終巻となってしまった。

昨今、日本国内で発行されていた郷土誌、同人誌などが、次々と廃刊となっている。むつ市でも、下北文化社が48年にわたって発行してきた同人雑誌「下北文化」が、2021年5月30日発行の第55号で終刊となった。

こうした中、国立科学博物館では、500万点以上の標本・資料の維持管理の資金のため、2023年8月に目標額1億円のクラウドファンディングを始めたところ反響が大きく、1カ月で目標額を大きく上回り、約4万4千人から7億円を超える支援金の応募があった。日本の国民の中には、日本の歴史・文化を守りたいと思っている人が多数いるのである。

一方、アメリカのニューヨーク市にあるスミソニアン博物館では、収集物が1億4千万点にも及ぶという。運営資金はアメリカ合衆国連邦政府の財源及び寄付、寄贈、ミュージアムショップ、出版物からの利益で賄われているため入場料は無料である。

郷土誌「うそりの風」は、若い人にも郷土の歴史について興味を持ってもらいかつ読みやすいものとするため、写真などを多用したり、ジュニアのページを設け年1回発行しているが、発行するたびに赤字になっている。しかし、「うそりの風」の前身である「うそり」を発行していた下北の歴史と文化を語る会の余剰金を寄贈していたことにより、継続することができている。

郷土誌「うそりの風」の継続のために、郷土の人々が関心を示すような記事を掲載することより販売部数をのばし、会員を増やし、さらに若い人の執筆者を増やすことなどが至上命題となっている。

令和6年2月

うそりの風の会 会長 祐川清人

うそりの風 第9号

目次

▶子どもネブタの時代 ^{と き}	構成 編集部	2
●ねぶたのおもいで	米谷 稔	9
●大畑のネブタ	中嶋 康夫	14
●ジュニアのページ		
下北を築いた人々⑥ 歌人 鳴海要吉	竹浪 和夫	23
●恐山街道の三十三観世音菩薩像 ——現状報告とガイドを兼ねて——	三浦 順一郎	38
●五代目 四郎治と明治維新	米谷 稔	48
●旧斗南藩士族攷（1） ——青森県の誕生と旧斗南県士族の困窮救済——	甲羽 智武	60
●恐山今昔（3）	祐川 清人	80
■新刊紹介		22
■ちょこっとコラム 歴史一口メモ		79
■うそりの風の会 会則		95

誌上ギャラリー うそりのまにまに
表紙裏、裏表紙

うそりの風の会 会誌

うそりの風 第9号

令和6年2月24日発行

頒価本体1182円

編集・発行 うそりの風の会

会長 祐川清人

事務局

印刷所 協同印刷工業株式会社

青森県むつ市金曲1-15-8

電話 0175 (22) 2231